

めだち／木々の芽が出る
こと。または、その芽を意
味する言葉。発芽したば
かりの木の葉や、やわらか
な芽をさしている。

らしく

自分らしく、
粹なくらし



特集

輝く！プラチナ世代

スウィングしちやおう！音楽を通じた世代間交流が生きがい！ひろしまシルバーアンサンブルもみじく
誰もが憧れた秘密基地を作った大人たち！大人のかくれ家倶楽部
社会参加へのきっかけづくりと、地域ぐるみで子育て支援！孫育て検定協会

Hm³助成支援団体の紹介／人材バンク名人達人宝人／ようこそ！公民館へ・南区公民館／らしつくレポート・広島駅前手押しポンプのその後
らしつくコラム・プラチナ世代のまちづくりへの参加／豊かな人間関係の生活を指して／情報の森／プラザ通信

輝く！プラチナ世代

今回は退職しても色々なかたちで社会参加している元氣な*プラチナ世代の皆さんにスポットをあてて紹介します。

*プラチナ世代とは概ね55歳以上の方で、いつまでもプラチナのように輝き続けていたきたいという願いを込めて名付けられました。



▲ 団員の皆さん

スウィングしちゃおう！ 音楽を通じた世代間交流が生きがいに

ひろしまシルバーアンサンブル～もみじ～



▲ 練習風景

**楽しく、無理せず。
好みの楽器で奏でる
オーケストラ誕生**

平成12年5月、「本格的なシルバークエストラを広島にも作ろう」と、当時の(財)広島市ひとまちネットワークの呼び掛けで結成されたのが「ひろしまシルバークエストラルームもみじ」です。

当初は、30人ほどの団員を想定していたのですが、驚くほどの反響で広島市内やその近郊から60歳代を中心に男女合わせて65人の応募があり、最終的には熱意を考慮して全員の入団が認められました。

「もみじの活動は楽しく、無理をせずに、がモットーです。正式に発足後、それぞれがギターやフルート、ハーモニカ、大正琴など様々な好みの楽器を持ち寄って、元気で賑やかにスタート。月2回(1回当たり3時間)、地域の音楽教育に携わってきた先生方や、楽器店の協力を得て、ユーストピア安佐(安佐勤労青少年ホーム)で練習を始めました」と、自らもかつて、小学校で音楽の教師をしていたグループの代表で音楽監督の伊藤敏敏さんは語ります。

肩肘を張らず練習するのが長続きのコツ

活動開始から14年目に入った現在の団員は51人で、平均年齢は74歳。その内80歳以上の団員が11人も在籍しているそうです。その内の1人、最高齢87歳でフルートを担当している古元隆生さんは「それまではピアノを弾いた経験しかなかった私が、知人の誘いで5年前に入団。最初はフルートを上手く吹けるか不安がありました。少しづつ上達するにつれて気持ちも高まって、今では練習日が待ち遠しくてたまりません。肩肘張らずに仲

間と楽しく一緒に練習をして、話をするのが私の生きがいで、あまり刺激になっていません」とその魅力を語ります。

結成当初からの団員でパーカッション担当の前川朋生さんは、定年後音楽教室に通う中で活動を知り入団。スタート時にはステージマネージャーを務めるなど、演奏家としてはもちろん裏方を兼ねること

もあり、その両立にいろいろと戸惑うこともあったそうです。今では演奏時に、色々な楽器を使い、アレンジを変えて楽しんでいるそうです。

また、同じく結成当初からの団員で鉄琴の種グロックン担当の松本智恵美さんは、「私は全くの音楽活動初心者で入団。様々な世代が音楽を通じて交流する姿に引かれ、14年間続けてこられました。



▲ ほとんどが入団する前は楽器未経験

**コツコツと続けて14年。
未来に向けて気負わず
スウィング**

広島市の行事や福祉施設での演奏活動など、年8回程度地域交流に貢献。広島県内の主要なホールでの演奏経験はもちろんで、過去には北海道や横浜でも演奏活動をしたことがあるそうです。

「もみじの特徴は、とにかく多種

多様な楽器によって編成されていることです。バイオリン、サククス、アコーディオンといった楽器はもちろんのこと、ハーモニカ、オカリナ、ウクレレ、ベースギター、パーカッションなど、約20種類の和洋様々な楽器が一体となつて旋律を奏でています。全国に60歳以上の方々で結成された「シルバークエストラ」は幾つかありませんが、このように多くの楽器で編成されているのは珍しいと思います。14年で積み重ねてきたパートリは、ジャンルを問わず100曲にも上ります。演奏する場所など周りの環境に応じて選曲し練習して、本番当日に臨んでいます」と伊藤さんは語ります。

気負わず、それぞれのペースで演奏する姿からは、まるで時を巻き戻した少年少女のような屈託のない

笑顔が見られます。

現在は、来年の結成15周年に向けて、毎月練習に励み演奏会に出演しています。その後も一年一年を積み重ねて20周年を迎えることを目指しているそうです。



▲ 安佐南区音楽祭での演奏の様子(平成26年2月9日)

らしく contents

Vol.38
芽立号
2014.3

ページ

1 **特集**
輝く！プラチナ世代
…… ひろしまシルバーアンサンブル～もみじ～
…… 大人のかくれ家倶楽部
…… 孫育て検定協会

5 **Hmi助成支援団体の紹介**
…… やさしさのまちづくり屋台村
…… 特定非営利活動法人NPO 狩留家
…… 権現峠の自然をまもる会

7 **人材バンク 名人 達人 宝人**
…… 広島終活を考える会 佐々木 正則さん
…… NPO法人心の救急箱 三上 弘恵さん

9 **ようこそ！公民館へ**
…… 南区内公民館

10 **らしくレポート**
…… 広島駅前手押しポンプのその後

らしくコラム
…… プラチナ世代のまちづくりへの参加
～豊かな人間関係の生活を目指して～
県立広島大学
保健福祉学部人間福祉学科
講師 手島 洋

11 **まちづくり市民交流プラザのご案内**

13 **情報の森**

15 **プラザ通信**



表紙写真／もみじの皆さんの毎月の練習の様子

社会参加へのきっかけづくりと、 地域ぐるみで子育て支援

一般社団法人孫育て検定協会

http://magosodate-kentei.jp/



▲ 検定の様子

学び経験を積んだ知識を地域のコミュニティ活動へ

子育て・孫育て活動を通して、子ども高年齢化時代の様々な課題を解決することを目的に平成25年5月に発足したのが、「一般社団法人孫育て検定協会」です。

孫育て検定とは、検定を受けることで今まで見えなかった子育ての課題を肌で感じてもらう、検定後の専門家の講習で祖父母世代が実践的な現代の子育てへの取組みを習得。これによって、自分の孫から地域の子育てへも関心が向くことで地域貢献につながればという考えから生まれました。子育ても落ち着いたプラチナ世代の方々に、それぞれが体験した教育、食育、保育に関する

「まず考えたのが、地域住民を私たちの活動に巻き込むことが大切で、大人の居場所を作ることでした。自分たちが幼い頃、まだ電気やガス、水道も整備されていない時代、遊びは山の中でした。友だちと山の中を走り回った思い出が強く印象に残っていたので、もう一度童心に返って遊べる場所を作ろう。その中で、自分たちの子どもや孫、地域の子どもたちと触れ合う場所を作れば、世代を超えて交流ができて、もつと地域が一つにまとまるのでは、と考えました」と代表の木戸敏明さんは語ります。

「後戻りはできません」
覚悟を決めさせたひとつの言葉

木戸さんを含む8人のメンバーは、会を発足後、まず山の整備に着手。途中、何度も挫折しそうになったこともあったそうですが、その度に公民館スタッフから「後戻りできません。前に進むしかないんです。地域を盛り上げるためにも」と叱咤激励されて活動を継続してきました。今ではメンバーの手によつて敷地内にステイジやツリーハウスを作り、炭焼き窯やピザも焼ける石窯も設置。カブトムシの幼虫を育てて、近隣の子どもたちに配ったり、椎茸を栽培してみんなでバーベ

「協会では、今祖父母が感じている子育てに関する世代間ギャップを埋めて、プラチナ世代の方々にもっと自信を持って社会活動に参加していただくことを目的に「孫育て検定®」を作りました。検定は、子育て・孫育てに興味のある20歳以上の方であれば誰でも受講できます。子育て事情の今昔、保育編、食育編、遊育編、時事編に分けて出題。点数をつけて可否を判断するのではなく、受講者が検定後に各専門分野のエキスパートより、問題に即

誰もが憧れた秘密基地を作った大人たち

大人のかくれ家倶楽部

http://blog.goo.ne.jp/otonanokakurega-ak



▲メンバーの皆さん

地域住民を巻き込み 世代を超えて交流できる場を

平成18年5月から、広島市安佐北区と東区にまたがる松笠山山麓で、里山の整備と自然再発見、仲間づくりをテーマにして活動しているのが「大人のかくれ家倶楽部」です。

結成するきっかけとなったのは、平成16年に口田公民館で開催したまちづくり活動支援事業「わがまち見直し隊」でした。市民活動の担い手を公民館で育てていく事業で、公募によって集まった8人のメンバーが月に一度のワークショップで地域の課題を話し合っていました。その中で生まれたのが、地元に残された豊かな自然を活用し、人々が触れ合う場所を作ることでした。

「まず考えたのが、地域住民を私たちの活動に巻き込むことが大切で、大人の居場所を作ることでした。自分たちが幼い頃、まだ電気やガス、水道も整備されていない時代、遊びは山の中でした。友だちと山の中を走り回った思い出が強く印象に残っていたので、もう一度童心に返って遊べる場所を作ろう。その中で、自分たちの子どもや孫、地域の子どもたちと触れ合う場所を作れば、世代を超えて交流ができて、もつと地域が一つにまとまるのでは、と考えました」と代表の木戸敏明さんは語ります。

現在の会員は、口田周辺の地域住民以外にも活動に興味を持った中区、南区、東区の60〜70代の男女35人が参加。月2回、第二土曜日と第三土曜日の朝から、その時期にあわせてさまざまな活動をしています。また年に2度、秋には「森のコンサート」と題して、地域の団体や個人がハンドベルやコーラスなどを披露する、出演者100人以上、来場者300人以上という一大イベントを行うまでに成長しています。

子どもに触れ合っているのが子育てについて理解していたつもりです。しかし検定の内容は、自分たちが子どもの頃と違う事も多くカルチャーショックを受けました。今回検定を受け、それが今のやり方だと理解したことで、今では若い世代との子育てのギャップを埋める良い教材になっています」と語ります。

協会では、回を重ねるごとに親世代との子育て・孫育てに関する相互理解が少しずつできていくと実感。今後は、検定を通して日本に古くから伝わる伝統の遊びなども次の世代へ伝えていくことや、食育や保育に関する知識を共有していくことにも取り組んでいきたいと考えています。

家族だけではなく、地域が一体となって子育て・孫育てに取り組んでいくことでプラチナ世代が、豊かな社会貢献をするひとつの道標になるのではないかと感じました。



▲ 森のコンサートの様子



▲ 検定資料